KOMAZAWA×SAPPOROGAKUIN

# 駒澤大学7－1札幌学院大学

ゴールを決めた菊地が島田とハイタッチ
(撮影・斉藤卓也)

# 1回戦難なく突破！準々決勝へ

2006年度 第30回 総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント 1回戦

## 優勝」のために…

いよいよ、夏の総理大臣杯が幕を上げた。昨年、準々決勝で敗退をし、早々と大阪の地を後にした駒大。その時、選手の誰もがリベンジを心に誓ったはず。そんな彼らの目標はただ一つ、優勝」の二文字なのだ。

初戦の相手は初出場の札幌学院大。初出場の相手とはいえ、トーナメント形式のため負けたらおしまい。常に全力疾走でいかなければならない。

前半6分、早くも流れは駒大に。**塚本**のCKに**菊地**が合わせ先制点を上げる。続く15分にも、**塚本**のFKをまたしても**菊地**が合ディングで決める。だが、ここからがなかなか展開しない。左SHの**島田**などから攻撃陣の繋ぐものの、ゴールには至らない。決定機をみすみす逃し続け、このまま動きのないまま前半終了。

そして後半戦へ勢いに乗りたい駒大だったが、逆に5分、札幌学大にPKを奪われ、一点差に。目の離せぬ状況の中、流れを変えたのが**原**だった。俺と(巻)佑樹のどっちかが点を取れば、チームは伸びる」(**原**)と語るよう、66分、PKを決める。この追加点により、駒大にエンジンが入る。78分には左サイドにいた**東平**が中央にいる**巻**へ、その**巻**が追加点をあげる。更に82分に**原**、84分には**筑城**のクロスを**榊原**が。もうこうなれば彼らの勢いは止まらない。ラスト10分に**高崎**を投入。その4分後に**高崎**が加点し、7－1で大勝した。

一回戦を勝ち抜いた指揮官はこう振り返る。PKで一点取られて、あの時間帯が良くなかった」(**秋田監督**)。確かにあの時間帯、誰もがソワソワしていたはず。決定機を確実に決め、いかに早く自分たちの流れに持っていくかが重要。それを今回はすんなり実行出来なかった。次戦、準々決勝では立命大と対戦する。立命大も関西リーグでは二位と、容易には勝てない相手。ボール回しのサッカーに駒大はどう戦うか。だが、優勝」という目標への思いしかない彼らにためらいはない。熱き思いに満ちた彼らは、きっとやってくれるはず。

(深松美里)